

《平成23年11月議会質問および回答要旨》

1. 学力向上対策について

《回答：教育長》

今年行った県の学力調査における全国との比較では、小学校ではやや下回るがほぼ同等であり、中学校では全学年、全教科とも上回っている。この結果は県の学力向上対策に一定の効果があったものと認識している。

しかし一方で、身につけた知識、技能を活用する力がまだ十分でないこと、また記述式の問題に対する無回答率が高く、書く力に問題があること、さらには平日の家庭学習時間が全国平均を下回っており、改善を図っていく必要があること等の課題があることを認識し、今後改善に向け引き続き取り組んでいきたいと考えている。

2. 受診時定額負担について

《回答：知事》

高齢者の方々や障がい者の方々には受診の頻度が高く、健保組合医などでは患者一人当たりの受診回数が月2.1回であるのに対し、後期高齢者医療の場合月3.7回ぐらいと2倍近い回数であるので、受診時定額負担制度により、受診時に100円の負担を求めることになれば、高齢者の負担が大きくなる等の問題点がある。

今後、患者の高額療養費の負担軽減における財源については、国において関係者の意見を十分聞いた上で、合理的な制度を考えていくべきである。

3. 児童虐待について

《回答：健康福祉部長》

児童虐待への対応において最も優先すべきことは、子どもの安全確保であるが、兵庫県の事件のように、児童虐待の防止等に関する法律においては、出頭要求などの強制措置を取ることが出来ない場合がある。

しかし、子ども心身に重大な影響を及ぼす恐れがあれば、親の同意がなくても、児童福祉法に定める一時保護により子どもの安全確保が可能なことや、その他の法律により対応が可能と考えられるので、島根県においては今後とも、児童相談所と関係機関が一致協力しながら、子どもの安全確認、安全確保に万全を期していく。

4. 子宮頸がんワクチンについて

《回答：健康福祉部長》

子宮頸がん予防ワクチン接種事業については、国において昨年の11月から今年度末までの事業として設けられたもので、県としてはこの疾病の重篤性から、まずは原因となるウイルスの感染を防止することが第一であり、ワクチン接種の徹底が重要であると認識している。そのためにも、市町村や県民の負担を増加させることなく、誰もが等しくワクチン接種を受けられることが必要と考えている。

従って、市町村の実施する子宮頸がんワクチン接種が国の継続的な公費負担のもとで着実に推進されるよう、国に対し要望を行っていく。

5. 土木遺産（高角橋）の保存、顕彰、及びその活用について

《回答：土木部長》

高角橋の保存については、新しい橋が完成した後の将来の施設管理者である益田市と相談していきたい。また、新しい橋が完成するまでの間は、土木遺産に認定された趣旨を尊重の上、適切な維持管理に努めたいと考えている。

顕彰については、今回の土木遺産の認定銘板や、この橋の歴史的価値を記載した案内板の設置など、益田市や地元とともに検討し、その文化的、技術的価値を広く社会に伝えていきたいと考えている。

《回答：商工労働部長》

石見圏域における神々の国しまねプロジェクトでは、万葉をテーマとした様々な取り組み等、地域と一体となって誘客を進めていく考えである。特に、柿本人麿と関係が深い益田市には、全国各地から万葉集の研究者やファンが多数訪れて戴けるものと期待している。

現在、万葉の魅力を伝えるため、高津柿本神社や万葉公園など人麿ゆかりの地を巡るコースを設定して、観光ガイドが案内する取り組みを実施しているが、土木遺産に認定された高角橋をガイドツアーのコースに組み入れるなどして、益田地域の魅力が高まるようにしていきたいと考えている。

今後、土木遺産はすばらしい地域資源であるので、地域や民間の方々と一緒になって、土木遺産を生かした新たな着地型の旅行商品づくりに努めていく。